

2007年6月1日発行

日本顎顔面補綴学会

Japanese Academy of Maxillofacial Prosthetics

Newsletter No. 5

Maxillofacial Prosthetics

発行人 後藤昌昭

編集 広報委員会

事務局 T135-0033 東京都江東区深川2-4-11 一ツ橋印刷(株) 学会事務センター内

Tel : 03-5620-1953 Fax : 03-5620-1960

E-mail : max-service@onebridge.co.jp

顎顔面補綴の一層の普及と発展に向けて

日本顎顔面補綴学会第7代理事長に就任された後藤昌昭先生のプロフィールと所信、各委員会の活動方針とメンバーを紹介いたします。

理事長挨拶



日本顎顔面補綴学会

理事長 後藤 昌昭

略歴

- 昭和52年3月 九州大学歯学部卒業
昭和56年3月 九州大学大学院歯学研究科歯学臨床系専攻博士課程単位修得後退学
昭和56年4月 佐賀医科大学歯科口腔外科助手
昭和58年12月 佐賀医科大学歯科口腔外科講師
昭和62年4月 佐賀医科大学歯科口腔外科助教授
平成6年 文部省在外研究員としてドイツ、ハノーバー大学顎顔面外科、米国、ハーバード大学医学部附属子供病院形成外科
平成14年8月 佐賀医科大学歯科口腔外科教授
現在に至る

ご挨拶

本年1月より日本顎顔面補綴学会理事長に就任いたしました。本学会は1976年(昭和51年)に第1回の研究会が開催されたのが始まりですので、30年以上の歴史を有することになります。この30年は不肖私が歯科医師になってからの期間と一致します。

生命科学の発展と医療技術の進歩によって、生体の機能と形態を回復させることができかなりの部分まで可能になってきました。しかしながら、顎顔面領域は複雑で高度な機能と高い審美性を要求されることから、患者さんが本当に満足できる回復を達成することは容易ではありません。本学会に所属する歯科補綴、歯科口腔外科、形成外科、歯科技工、言語、心理など多くの分野の研究者が、患者さんの希望を謙虚に受け止め、自らの専門領域の垣根を越えて討議し、わが国における顎顔面補綴治療の普及と発展に貢献していかねばならないと考えています。

そのような観点からも、法人化は避けて通ることはできません。水城教授が会長として開催され

る本年の岩手での学会総会において、日本顎顔面補綴学会の法人化について提案させていただく予定ですので、是非に会員の皆様の賛同をお願い申し上げます。

また、法人化と相まって認定制度についても検討したいと思います。本学会は、補綴、口腔外科、歯科技工、言語など異なる分野の専門家が所属しておられますので、認定制度の確立には困難な点も多々あります。しかし口腔顎顔面リハビリテーションはチームアプローチが重要であることを理解していただければ、分野の縛りなどとは無関係に、顎顔面補綴学会が認定した専門家として活躍していただけると期待します。

私自身、本学会での経験は浅いのですが、理事、評議員、そして会員の皆様のご協力を得て、なんとかこの学会を発展させていきたいと思います。どうぞよろしくお願ひいたします。

理事紹介

石上友彦（日本大）、大畠 昇（北海道大）、沖本公繪（九州大）、小野高裕（大阪大）、久保吉廣（徳島大）、熊倉勇美（川崎医療福祉大）、後藤昌昭（佐賀大）、佐々木啓一（東北大）、塩入重彰（横浜医療センター）、下郷和雄（愛知学院大）、鈴木規子（昭和大）、清野和夫（奥羽大）、田中貴信（愛知学院大）、谷口 尚（東京医科歯科大）、野村隆祥（野村歯科医院）、鰐見進一（九州歯科大）、松浦正朗（福岡歯科大）、水城春美（岩手医科大）

庶務幹事 井原功一郎

委員会活動

学術委員会

委員長 沖本公繪（九州大）

委 員 井原功一郎（佐賀大）、菅井敏郎（菅井歯科医院）、舘村 卓（大阪大）、野村隆祥（野

村歯科医院）、鰐見進一（九州歯科大）
幹 事 諸井亮司（九州大）



学術委員会の主な活動は「教育研修会の開催」と「優秀論文賞の審査・選考」です。教育研修会は将来の顎顔面補綴治療を担う若手研究者の育成を目的と、顎顔面補綴に関する基本的な知識や治療法・再建法などの紹介から始まり、回を重ねるごとに最新の治療法の紹介やテーマに対する問題点の抽出等の役割も加味されるようになりました。

第12回教育研修会は、第24回総会・学術大会（水城晴美総会長／岩手医科大）時に開催されます。今回のメインテーマは「顎顔面補綴におけるチームアプローチ」で、座長は野村隆祥先生（横浜市開業）が務められます。顎顔面補綴患者さんに対しては、術前・術中・術後その時々の状態により、多方面からチームアプローチ治療が必要となります。しかしそのチームアプローチが有機的に機能しているとはいえないのが現状です。今回はコ・メディカルを含む4人の講師、伊藤創造先生（岩手医科大）、今井智子先生（北海道医療大）、長繩弥生先生（愛知県がんセンター）、松山美和先生（九州大）に、手術・再建以外の立場で、患者さんのQOL回復にどのように関わっておられるかということに焦点をあて講演をして頂きます。

優秀論文賞は本学会が目指している領域における学問と技術の発展・充実に寄与する優れた学術論文の著者に与えられます。学会誌に掲載された多くの論文のなかから選考できることを願っています。

編集委員会

委員長 久保吉廣（徳島大）

委 員 井原功一郎（佐賀大）、大貫昌理（鶴見大）、尾澤昌悟（愛知学院大）、小野高裕（大阪大）、佐渡忠司（佐渡歯科クリニック）

ク), 隅田由香(東京医科歯科大), 舘村
卓(大阪大), 水城春美(岩手医科大)
幹事 乙丸貴史(東京医科歯科大)



今度、鈴木規予先生から編集委員長を引き継ぐことになりました。平成11(1999)年に編集委員を命じられてから今年で9年目となります。野首孝祠先生、塩入重彰先生、鈴木規予先生が築き上げられた効率が良く、速やかな査読作業を踏襲してゆく所存です。編集委員会の構成は委員長1名、口腔外科系と補綴歯科系の委員4名ずつ、幹事1名の10名で、最近では委員の数は一番多いと思いますが、委員の先生には投稿された論文を充分吟味していただきたいと考えております。また口腔外科系の主要な3名の先生が学会の重要なポストに就任された関係で新たに井原功一郎先生、佐渡忠司先生、館村 卓先生に加わっていただきました。補綴歯科系は編集幹事であった隅田由香先生に編集委員をお願いしました。編集幹事には東京医科歯科大学の乙丸貴史先生にお願いしました。

本学会もNPO法人化に向け準備委員会が設置されました。法人格を取得すれば国民への広報活動も現在より盛んに行わなければいけません。国民に認知され、理解される学会となるためにも、また国民の健康や生活の質を向上させるためにも学会誌を充実させ、顎顔面補綴領域における質の高い研究を行い、その成果として最高の治療を国民に提供していくことがわれわれの責務であると考えております。学会誌の充実は学会活動のバロメータでもあると考えておりますので会員各位には学会誌への投稿を切にお願い申し上げます。

国際交流委員会

委員長 谷口 尚(東京医科歯科大)
委員 尾澤昌悟(愛知学院大), 菅井敏郎(菅

井歯科), 隅田由香(東京医科歯科大), 武部 純(岩手医科大), 北條 了(神奈川歯科大), 松山美和(九州大), 向山 仁(横浜みなと赤十字病院)



石上委員長のもとに活動されてきました本委員会を引き継ぐことになりました。これまで、本委員会はISMRとの連携協力関係の構築とこれを通じての近隣アジア諸国との交流強化を目的に活動がなされてきました。その成果として、2002年10月に第19回日本顎顔面補綴学会総会(大山喬史総会長)と第5回国際顎顔面リハビリテーション学会学術大会(イン・ズロトロウ大会長)がジョイント・シンポジウムとして沖縄県にて開催されました。世界20カ国から総勢280名(海外94名、国内186名)の参加者を迎えた。本大会の開催は本学会が指導的立場で国際的活動に踏み出すきっかけになりました。

また、国際的視野に立って貢献すべく、本学会員をISMRの団体会員とする提案を行い、交渉を重ねてまいりましたが、今年度から本学会員はISMRの団体会員となることができました。これにより、本学会ならびに本学会員の国際的活動の場が飛躍的に拡大するものと思われます。

国際交流委員会は、ヨーロッパやアジアをはじめとする世界の諸地域の関連学術団体との交流協定の開拓も視野に、こうした活動が円滑に行えるようISMRとの連繋をさらに深め、本学会の発展に鋭意努力していく所存です。

認定医制度検討委員会

委員長 石上友彦(日本大)
委員 伊藤創造(岩手医科大), 佐々木啓一(東北大), 永井栄一(日本大), 服部正巳(愛知学院大), 山森徹雄(奥羽大)
本学会の法人化に際し、社会に顎顔面補綴の専



専門性を周知していただくうえにも、まずは認定医制度を早急に構築する必要があります。顎顔面補綴学会は口腔外科学、歯科補綴学、放射線学あるいは歯科技工学、歯科衛生学、言語療法学など多岐にわたる専門性を基盤とする学際的分野であり、本会の会員は、歯科医師をはじめ医師、歯科技工士、歯科衛生士など多くの専門職種から構成されていることが特徴です。

認定医制度の発足にあたり、これらの職種すべてを網羅する認定医制度を同一の認定条件のもとで設立することは難しく、今回は、その最初の活動として歯科医師、医師を対象とした認定医規定を作成し、その後に認定医制度の規則などを参考に、他の認定制度も構築して行きたいと考えています。

本年度中の活動の第一段階として、申請書類などを制作するために、委員会において認定医の条件ならびに資格などを条文化した認定医制度規則を制定すると同時に、認定医審議会等の設置に必要な要件を確認する活動を行っていく予定です。また、多くの会員が認定医を取得後、学会がさらに活性化していくためにも、認定医の資格更新も含め検討していく予定です。認定医制度が制定後には、本学会の広報から学会誌およびホームページなどを通じて広く会員に周知して頂き、是非とも本年度中に顎顔面補綴認定医が輩出できるように鋭意努力していく所存です。

法人化準備委員会および会則検討委員会

法人化準備委員会

委員長 石上友彦（日本大）

委員 大畠 昇（北海道大）、尾澤昌悟（愛知学院大）、田中貴信（愛知学院大）

谷口 尚（東京医科歯科大）

会則検討委員会

委員長 塩入重彰（横浜医療センター）

委員長代行 石上友彦（日本大）

委員 大畠 昇（北海道大）、尾澤昌悟（愛知学院大）、田中貴信（愛知学院大）、
谷口 尚（東京医科歯科大）

日本顎顔面補綴学会が任意団体でなく、学会の活動や発言が社会的に認められる社団法人を目指すためにも、本学会の規模や財務状況からまず「NPO 法人」になることが理事会において提案され、承認されました。この法人化のために塩入重彰理事を委員長に本委員会が設立されましたが、塩入理事の体調不良により急きょ委員会および構成が上記メンバーになりました。

本年度は「NPO 法人」設立のために NPO 設立運営センターの支援を受け、定款作成と法人化のための事務手続きを行い、総会において会員の合意を得た上で法人設立総会に切り替え、定款と現在の学会規則との整合性を図っていきたいと考えています。

法人化の主なメリットは次のようなことが挙げられます。

- ・団体で財産の所有ができる。
 - ・事業委託等の契約がしやすくなる。
 - ・個人よりも信用が作りやすくなる。
 - ・助成金や補助金を受ける場合の信用になる。
- デメリットは次のようなことが挙げられます。
- ・原則として、住民税が課税される。
 - ・収益事業には、利益に対して法人税が課税される。
 - ・毎年の会計や事業報告を所轄庁に提出し、一般に公開しなければならない。
 - ・解散時、残余財産が戻らない。

上記のようにメリット、デメリットはあります
が、日本顎顔面補綴学会が社会的に認められ、顎顔面補綴学が周知され、社会へ貢献すると共に会員が専門医として活躍するためにも、本年度中に定款を整え NPO 法人を取得し、本委員会において会則を検討していく予定です。

（石上友彦記）

用語検討委員会

委員長 鈴木規子（昭和大）

委 員 今井智子（北海道医療大）、尾澤昌悟（愛知学院大）、佐々木啓一（東北大）、隅田由香（東京医科歯科大）、関三千男（大分大）、野村隆祥（野村歯科医院）



用語検討委員会では従来より顎顔面補綴に関する検討が行われ定義に問題を残す項もありますが、前委員長の大畠先生が検討結果を用語集としてまとめられるところまで参りました。顎顔面補綴は顎顔面リハビリテーションともいえる領域であり、各種口腔疾患に関連した外科的治療前後の形態および機能障害に対して補綴的治療による治療に加えて他の治療法による改善が必要とされる領域です。そこで今期は顎顔面補綴のチーム医療を担う専門領域の用語に広げてさらに検討を加える予定です。具体的には言語聴覚療法、歯科技工、口腔ケア、歯科衛生指導などに関する用語が検討対象となります。この試みが顎顔面補綴に携わる臨床家相互の共通した視点に基づく理解を深めることに役立つことを願うものです。



ゼや顎補綴に使用する軟性材料の入手がなかなか困難な点であり、これは本学会創立当時の問題です。以前から材料入手のネットワーク作りが提唱されてきましたが、未だ実現していないのが実情です。もう1つの仕事は前委員長の下郷教授が取り組んできた顎面補綴治療を行っている医療施設の調査の結果を皆様に提示することで、施設間の医療情報交換のネットワークと材料入手のためのネットワークをリンクさせて会員が活動しやすい環境を整えたいと考えています。そして会員の活動を通して顎面補綴治療が社会に認知される医療となることを期待しています。

新しい委員として、九州歯科大学の鶴見進一教授、鶴見大学の佐藤淳一准教授、愛知学院大学の下郷和雄教授、そして私の同僚の高橋 裕教授に就任していただきました。目標は任期中に達成できるかどうか判りませんが、有能な先生方に集結して頂いたので、次に繋がる結果を残したいと思っています。

またこれからは新しい材料やコンピュータテクノロジーを応用した新しい技術が顎面補綴治療に導入される時代が来ると思います。顎面補綴治療が大きく変化、進展する時代になることを期待しています。

医療委員会

委員長 松浦正朗（福岡歯科大）

委 員 佐藤淳一（鶴見大）、下郷和雄（愛知学院大）、高橋 裕（福岡歯科大）、鶴見進一（九州歯科大）

私は本学会の創立当初からの会員として活動してきました。現在は口腔外科から口腔インプラント学へと専門を変更したため、臨床での顎顔面補綴とのかかわりは若干変化してきています。顎顔面補綴の分野での大きな問題の1つはエピテー

広報委員会

委員長 小野高裕（大阪大）

委 員 大慈弥裕之（福岡大）、冲本公繪（九州大）、熊倉勇美（川崎医療福祉大）、隅田由香（東京医科歯科大）、又賀 泉（日本歯科大新潟）、山口能正（佐賀大）

幹 事 堀 一浩（大阪大）

本学会の法人化、認定制度の設立など、対社会的な課題に取り組む上で、広報の果たすべき役割はますます大きくなってくると思われます。前



期広報委員会が沖本前委員長の下でホームページとニュースレター（年2回）の2本柱を立ち上げていただきましたので、今期はそれらの機能をさらに高めて学会と社会とのパイプを太くしていきたいと考えています。具体的には、ホームページの「市民の皆様のページ」と「英語ヴァージョン」の作成が課題です。

またニュースレターを通じて顎顔面補綴に関する情報を幅広く交換するために、委員会のメンバーは口腔外科、補綴、形成外科、言語療法、歯科技工の各分野の方々で構成いたしました。特に、歯科以外の職種で顎顔面に欠損をもった患者様のリハビリテーションに携わっておられる方々が本学会に興味をもち、参加していただけるようアイディアを練って行きたいと考えています。会員の皆様からのご意見・ご要望を歓迎いたしますので、どうかよろしくお願ひ申し上げます。

受賞者の声

平成18年度優秀論文賞を受賞して



山口 能正

佐賀大学医学部

歯科口腔外科学講座

「エピテーゼのワックス造形に使用するナビゲーションシステム」

掲載誌巻号頁：顎顔面補綴，
29 (2) : 43-50, 2006

この度は平成18年度優秀論文賞を頂き、大変光栄に思っています。また本学会員の皆様、特に不完全な論文原稿を丁寧に査読していただいた編集委員の先生方や、優秀論文として選考して頂いた先生方に感謝いたします。

眼球欠損を伴う顎顔面欠損患者の社会復帰にエピ

テーゼが有用であることは明らかです。われわれも患者のQOLの向上を考えエピテーゼを製作してきました。眼球欠損を伴う顎顔面欠損患者のエピテーゼ製作で最も時間を要する工程は、ワックスによる顎貌の造形と顔色に合わせたシリコーンの着色です。目を閉じた状態で印象採得した顎顔面模型では、眼球の位置を3次元的に再現することは容易ではありません。患者さんの傍でワックスによる顎貌の造形を行うと多大の時間を要し、患者さんも術者も疲労困憊してしまいます。今回、発表した論文は、コンピュータ上で顎顔面欠損前の患者の顎貌を予測し、その画像を石膏顎顔面模型に等倍になるように投影して、ワックスによる顎貌の造形を行います。この方法を使うことで、技工室で完成度の高いワックス造型を行うことができるようになりました。患者さんのもとでは微調整を行うだけとなり、患者さんの負担も少なくなりました。また、この方法を使うことによって、経験の少ない術者でも、ワックスによる顎貌の造形を容易に行うことができるようになります。今後この方法をより使いやすい方法に改良して行きたいと思っています。

また、顔色に合わせたシリコーンの着色についても、客観的で容易な方法を開発していきたいと思っています。

次回学術大会案内

●第24回日本顎顔面補綴学会総会・学術大会

会期：7月20日（金）・21日（土）

総会長：水城春美（岩手医科大学歯学部）

場所：いわて県民情報交流センター（アイーナ）

盛岡市盛岡駅西通1丁目7-1

（盛岡駅から徒歩2分）

プログラム（予定）

I. 特別講演

「幹細胞を用いた歯科再生研究の現状と臨床への展望と課題」

講師 原田 英光 先生

（岩手医科大学歯学部口腔解剖学第二講座教授）

II. 教育研修会

テーマ：

「顎顔面補綴におけるチームアプローチ」

座長：

野村 隆祥 先生（鶴見大学歯学部診療教授）

講師：

1) 他科との連携補綴治療

伊藤 創造 先生（岩手医科大学歯学部）

2) 顎顔面補綴患者のコミュニケーション
とりハビリ

今井 智子 先生（北海道医療大学心
理科学部）

3) 頭頸部腫瘍患者における術前からのか
かわり

長縄 弥生 先生（愛知県がんセンター）

4) 顎顔面補綴患者の会の意義と立上げ
松山 美和 先生（九州大学病院義歯
補綴科）

III. 一般講演

発表形式：口演

PC プレゼンテーション

演題申込締切：4月28日（土）

7月の盛岡は爽やかな気候です。また、岩手県は自然に恵まれた風光明媚なところです。多くの皆様の学術大会へのご参加をお待ちしております。また、岩手県の観光もぜひお楽しみ下さい。

書籍紹介

『若きいのちの日記』 大島みち子著

昭和33年5月、高校生の著者は左頬の痛み、左眼からの流涙、鼻閉感を自覚してK医大の耳鼻科を受診する。診断は上顎軟骨肉腫。二度にわたる放射線治療の末退院したが、4年後に両側鼻腔、副鼻腔組織の広範な壊死、口蓋の穿孔で大阪大学医学部附属病院耳鼻科に入院。そこで、信州の大学に通う青年と出会う。阪大では「軟骨肉腫の疑い兼壊死性鼻炎」と診断され、放射線治療の後、耳鼻科において左側眼球ならびに上顎骨を摘

出、さらに三ヵ月後には正中を越えて右側に進展した腫瘍の摘出を受けるもついに腫瘍が頭蓋底に浸潤し、昭和38年8月に21歳で亡くなった。その間3年余りにわたって著者と青年との間で交わされた往復書簡を青年が公刊したものがベストセラー『愛と死をみつめて』（大島みち子・河野 実著、昭和38年）である。書簡集は翌年テレビドラマ化と映画化され、平成18年にもテレビドラマとしてリメイクされた。『若きいのちの日記』には、<「愛と死をみつめて」のミコのノート>という副題がつけられている。

本書に収められている「日記」は、著者にとって最後の一年間となった阪大病院における闘病の日々の記録である。「往復書簡集」では病状の進行とともに患者本人より取り乱し自暴自棄になる青年を気遣い、気丈なところを見せる著者だが、「日記」は一人になって、変形していく顔貌、度重なる手術の苦痛、死の予感と向き合いながら綴ったものであり、読中・読後の感銘はより重たい。今日がん治療やリハビリテーションに携わる者は、およそ45年前の治療の限界だけでなく、患者が抱く疾病観や医療現場の空気の違いなどを読み取るだろう。私は、顎顔面補綴の恩師である奥野善彦先生より『愛と死をみつめて』のモデルとなった女性（本書の著者）を治療した話を伺ったことがある。そして、2冊の本を読んでわかったのは、担当医たちが「気休めに入れ歯でも作ってもらったら」という形で補綴科に紹介したこと、しかしすでに開口障害のために印象採得も難しく「型をとられるのが涙が出るほどつらかった」と書き残していること、それから半年を待たずして亡くなっていること、などだった。そのことが、顎義歯による機能回復は手術後一日でも早くという信念の源の一つになっている。

しかし、本書を通読すると、主治医たちは治療に全力を尽くし、彼女も家族も医師たちを最後まで信頼したことがわかる。巻末には、「思い出・解説」として、河野 実、中学・高校時代の担任教師、両親の手記とともに、主治医であった金光正志医師の「解説・大島さんのカルテから」と題する手記が掲載され、症状の変化と治療法が時間

Newsletter No. 5

Maxillofacial Prosthetics

を追って仔細に解説されている。患者の顔面で腫瘍がどのように進展して行ったかを示す附図は、主治医の無念さを物語るかのようだ。患者と友人・知己、家族、さらに主治医の真情で編まれた本書は、今日の医療現場における人間関係や情報管理の困難さに対しても、多くのことを語っているように思われる。

本書は、平成17年大和書房より新版が、平成18年に文庫版が刊行されている。

(小野高裕)

関連学会案内

国内学会

●日本歯科技工学会第29回学術大会

開催日：平成19年9月23日～24日

会場：仙台市民会館

大会長：小松正志

問合先：東北大学歯学部附属歯科技工士学校

●第52回日本音声言語医学会

開催日：平成19年10月26日～27日

会場：国立身体障害者リハビリテーションセンター（埼玉）

大会長：国立身体障害者リハビリテーションセンター病院（田内光）

<http://www.jslp52.org/>

●日本口腔顎顔面技工研究会（第9回大会）

開催日：平成19年11月24日

会場：長崎県立総合体育館 アリーナかぶとが
大会長：永野清司
問合先：実行委員長：長崎大学医学部・歯学部
附属病院 中央技工室 福井淳一
TEL：095-849-7733
Fax：095-849-7734

コンテンツ

理事長挨拶	1
理事紹介	2
委員会活動	2
受賞者の声	6
次回学術大会案内	6
書籍紹介	7
関連学会案内	8
広報委員会から	8

・学会および広報委員会へのご意見ご要望をお寄せ下さい。

・「会員からの声」記事募集しています。

日本顎顔面補綴学会広報委員会

委員長 小野高裕

委員 大慈弥裕之, 冲本公繪, 熊倉勇美,
隅田由香, 又賀 泉, 山口能正

幹事 堀 一浩

TEL:06-6879-2954, FAX:06-6879-2957

E-mail:ono@dent.osaka-u.ac.jp

〒565-0871 吹田市山田丘1-8

大阪大学大学院歯学研究科 顎口腔機能再建学講座